平成28年
2月
No.2

北の森林（もり）国有林

北鎮岳（左奥）と凌雲岳（左手前）

国民の森林・国有林

北海道森林管理局

北海道森林管理局 国有林野等所在市町村長有志連絡協議会

技術力・資源力・組織力を活用して、民有林と一体となって林業の成長産業化に

各地区の世話人の皆様と有意義な意見交換が行われました。

代表世話人の酒井新ひだか町長

北海道森林管理局では、1月18日（月）、平成27年度国有林野等所在市町村長有志連絡協議会を開催しました。

この連絡協議会は、管内における地域社会と国有林野事業の連帯の強化を図り、もって地元市町村の社会経済の発展と国有林野事業の円滑な遂行に寄与することを目的として毎年度開催しています。

すでに昨年9月から11月にかけて道内7カ所において各地区協議会を開催しており、各地区の代表市町村長として、酒井新ひだか町長、浅田天塩町長、菅原浜頓別町長、長屋滝上町長、安久津足寄町長、山本共和町長にご出席をいただいたほか（池部南富良野町長は都合により急遽ご欠席）、林野庁より、川端国有林野部長及び森山森林保護対策室長が出席しました。

黒川北海道森林管理局長

冒頭、黒川局長より、技術力・資源力・組織力を最大限活用して、民有林と一体となって林業の成長産業化等に取り組むことは国有林の重要な役割であり、忌憚のないご意見をいただきたい旨、挨拶がありました。

また、川端国有林野部長より、現在、森林・林業基本計画の策定作業を進めているところであり、戦後造成した人工林が主伐期を迎える中、川上・川中・川下の連携による収益性の向上を通じて、木材の循環利用の推進、地方創生への貢献等に取り組んでいく考えである旨挨拶がありました。

その後、連絡協議会の代表世話人に選出された酒井新ひだか町長の進行で、議事に入りました。

議事では、林野庁本庁より、平成28年度林野関係予算概算決定の概要、平成28年度税制改正大綱における森林吸収源対策の扱い、２０２０年オリンピック・パラリンピック東京大会関連施設への木材利用等について説明があり、森林管理局より、北海道国有林を巡る動向の説明がありました。

続いて、管内7カ所で行われた各地区協議会について、事務局を務める森林管理署長から報告を行った後、意見交換に移り、ＴＰＰの林業・木材産業への影響、ＣＬＴの普及に向けた財政支援、分収造林制度運営上の課題、造林作業の担い手不足への懸念、木材加工業の大規模化、バイオマス発電への安定的な原料調達の影響等の事項について、意見交換を行いました。

最後に、黒川局長より、意見・提案に対する謝辞と併せ、「国有林があってよかった」と評価されるよう引き続き取り組んでいきたい旨発言し、連絡協議会を終了しました。

（左から）菅原浜頓別町長、浅田天塩町長、長屋滝上町長、安久津足寄町長、山本共和町長

森林・林業基本計画にかかる地方意見交換会

北海道ブロック

我が国の森林・林業施策の基本方針を定める「森林・林業基本計画」は、「森林・林業基本法」に基づき、森林・林業をめぐる情勢の変化等を踏まえて、おおむね5年ごとに変更することとされています。

現行の計画は平成23年に策定され、今年で5年経過することから、見直しが進められています。

森林・林業基本計画にかかる
地方意見交換会
（北海道ブロック）

基本計画の変更にあたっては、広く国民の皆様のご意見を伺うことが重要であることから、林野庁は全国7ブロックにおいて「森林・林業基本計画にかかる意見交換会」を開催しており、北海道ブロックにおいては、1月14日（木）、北海道森林管理局で開催しました。

牧元林政部長

開催にあたり林野庁牧元林政部長より、成熟期にある国内の森林資源を活用した林業の成長産業化、地方創生の実現が大きなテーマであり、川上から川下まで様々な立場のみなさまからの忌憚のないご意見をいただきたい旨挨拶がありました。

また、意見交換を行うにあたって、林野庁より森林・林業・木材産業をめぐる情勢やこれまで林政審議会で行われた森林・林業基本計画の見直しに関する議論について、林野庁池田整備課長より説明がありました。

池田整備課長

森林・林業に係る各代表の皆様から、各方面の現状や課題・要望などについてのご意見をいただきました。

続いて、森林・林業に係る地方公共団体や各種団体、各業界の代表者から、各方面の現状や課題、要望などについての意見を発表していただき、主催者である林野庁、オブザーバーとして参加した北海道水産林務部等と活発な議論が交わされました。

北海道水産林務部
根布谷林務局長

意見交換会を通して、各業界・団体における積極的な取組や、担い手の確保、バイオマス原料の供給、地域の木材産業の現状など、地域や業界における森林・林業に係る課題が明らかになりました。林野庁では各ブロックでの意見交換会や林政審議会における議論も踏まえながら、基本計画の策定を進めていく予定です。

木質燃料を利用するバイオマス発電事業への対応

地域課題の解決に向けた取組

胆振東部森林管理署

再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度（FIT制度）を利用した発電事業は、東日本大震災以降、新たなビジネスモデルとして注目され、次々と民間事業体が進出することとなりました。未利用の木質燃料を利用したバイオマス発電も、その対象の一つであり、北海道内においても、当署管内をはじめ各地で発電所が建設されています。

建設が進むバイオマス発電所

木質バイオマス発電事業の利益は、発電事業者のみならず、未利用資源の活用を通じて森林整備や地域経済の活性化を促し、森林所有者ひいては森林を抱える地域一帯に及ぶことが特徴です。

管内で発電所の建設が進む当署も、国有林を維持管理する燃料供給側のプレーヤーとして、また、林政を担い森林の公益的機能を確保する当事者の一人として、適切に対応していかなければならない立場となっています。

燃料供給側の具体的なタスクは、燃料に適当な資材の賦存量や分布について路網や森林整備の状況を踏まえて把握し、電力の買い取り期間（20年間）を通じ、計画的時には臨機応変に供給することです。

しかしながら、当署管内の国有林では、これまで切り捨て間伐箇所が比較的少なかったこと、単幹集材化に伴い林地残材が散在化していること等から、バイオマス発電用資材のみを大量に供給し続けることは難しいのが現状です。

バイオマス椪積み

中長期的な安定供給を実現するため、ある程度既存の商業ベースを基本とし、条件の有利・不利な場所を適切に組み合わせた、いわゆる玉石混淆となる林分を団地化させ、その中から発電向け資材が生み出されていくことに期待するという手順を考えています。

この玉石混淆の程度設定は、署にとって将来にわたる課題となります。発電所土場のストックはもとより材価の動向や伐採する事業体の仕事量や技術力など、様々な地域的因子を横目で見ながら対処することとなります。

当然、民有林と国有林による民国連携は不可欠であり、引き続き自治体等との間で共同施業団地の形成をはじめ、連絡調整や技術交流等について進めていく考えです。

一方、燃料受給側となる発電事業者に目を向けると、既に資材調達を活発化させながら課題を整理し、解決に向け大胆な動きを見せています。

例えば、資材輸送や広域収集にトラック不足がボトルネックになるとの判断から、青森県から船舶、道南から鉄道コンテナを利用した資材調達を試行しています。

このように従来の発想を超えたブレイクスルー的な動きは、今後、供給側にも及ぶものと思われます。我々も、バイオマス発電という舞台の上で柔軟に行動できるよう、常に現場力を高めていかねばならないと考えています。

バイオマス積み卸し

森林技術・支援センターは、「森林・林業に関する技術開発及びその普及・支援」を行っており、今回その取組の一部を紹介します。

平成27年度 技術開発成果 発表会

（平成27年11月9日）

道北地域における研究成果を広く知って頂くため、「技術開発成果発表会」を森林総合研究所北海道支所、北海道立総合研究機構林産試験場・林業試験場、森林技術・支援センターの共催で、林産試験場（旭川市）を会場に開催しました。

発表会には林業事業体、道・市町村をはじめ各方面から113名の参加があり、林産試験場の講堂が一杯になるほどの盛況となりました。

森林総研北海道支所の佐々木氏より基調講演、林業試験場道北支場の蓮井氏より、「経済性を根拠とした森林作業道(林業専用道)の整備方法について」の成果が発表された他、林業試験場の津田氏、林産試験場の古俣氏からも発表がありました。

当森林技術・支援センターの南所長からは、「北海道型作業システムを踏まえた路網作設に伴う林業コスト低減の検証」と題して、北海道特有の地形条件（緩い傾斜）を利用し、林業専用道の路網密度を上げることで集材・搬出の効率化を図る「低コスト作業システムの開発」について取組状況と成果を発表しました。

技術開発成果発表会にて「北海道型作業システム」について発表する南所長

第64回 北方森林学会大会・研究発表

（平成27年11月12日）

札幌市「札幌コンベンションセンター」において第64回北方森林学会大会が開催され、道内の森林・林業の研究機関・大学関係者等が日頃の研究成果をポスター・口頭発表しました。

当センターはポスター発表の造林部門で「カラマツ造林の低コスト化をめざして」～カラマツの天然更新を利用した造林技術の開発～について発表し、森林管理に携わる一般会員を対象とした「技術賞」を受賞しました。

「技術賞」に選ばれたポスター発表

平成27年度 国有林野事業業務 研究発表会

（平成27年12月10日）

林野庁において「平成27年度国有林野事業業務研究発表会」が開催されました。

3つの部門（森林技術・森林ふれあい・森林保全）に分けて発表が行われ、当センターは、森林技術部門（発表者は森林技術専門官）にエントリーし、「天然林での樹種の多様化を図る更新方法の開発」（森林総研北海道支所と共同研究）について発表しました。

今後も、こうした発表会に積極的に参加し、センターの取組成果を紹介することとしています。

友田森林技術専門官による発表

振内合同森林事務所が所在する沙流郡平取町は、沙流川の流域に位置し、甘みに富んだ桃太郎トマトの栽培やブランド牛「びらとり和牛」の飼育が盛んな人口５，４００人程の町です。

町内芽生地区のすずらん群生地は、約15haにおよび日本一の広さであり、毎年６月開催のすずらん鑑賞会には多数の来訪者が可憐な花とほのかな香りを楽しんでいます。

群生地の「すずらん」

町内の二風谷地区は、アイヌ文化の伝統が色濃く残り、町もアイヌ文化振興を重要施策と位置付けております。

こうした中、アイヌ文化を育んできた森を保全・再生・活用するため、平成25年に平取町、北海道アイヌ協会平取支部、北海道森林管理局の三者で「21世紀・アイヌ文化伝承の森再生計画～コタンコロカムイの森づくり～」協定を締結し、国有林野を地域の文化振興の場として活用しております。

仁世宇国有林から幌尻岳を望む

日高山脈最高峰の幌尻岳（標高２，０５３ｍ）を有する平取町は区域面積の84％が森林であり、そのうち56％にあたる約４２，０００haが国有林野です。

現在は、振内・貫気別・幌尻の３森林事務所の職員４名で管理しており、振内森林事務所はその内約１５，４００haを担当しています。

森林事務所の職員は、日高山脈の奥深い森林で次のような業務を行っております。

① 地況林況調査

国有林野の適切な管理や伐採更新等の施業に資するための現地調査であり、森林計画の基礎資料とします。

夏場は、身の丈まで笹が繁茂している箇所や林道が通行出来ない箇所もありますが、そのような箇所は、積雪期にスノーモビルを利用して各種調査に行くこともあります。

積雪期は笹が雪に埋もれ、歩き易いことから効率的に業務を行うことが出来ます。

② 製品生産事業

森林整備により間伐した木を資源として有効利用するために製品（丸太）にする事業です。

昔は、非常に危険の伴う作業でしたが、現在は、様々な高性能林業機械により、安全で効率的に丸太を生産して土場に集積する作業形態が主流となっています。

このような森林整備の請負事業の監督も主要な業務です。

地況林況調査

③ 境界巡視

国有林野と民有地の境界を確認する業務です。

国民の財産である国有林野を管理するための重要な業務です。

④ 国有林の窓口業務

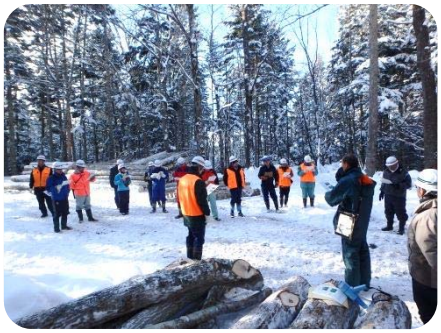
国有林野事業の最前線として地域に根ざした森林事務所であることを心がけ、「国有林の窓口」としての役割を担っています。

各地からの便り

「各地からの便り」の詳細は　森もりスクエア　検索

置戸照査法試験林において現地検討会を開催

【置戸町・網走中部署】



1月15日、置戸町にある道有林「置戸照査法試験林」において、オホーツク総合振興局東部森林室の協力により現地検討会を開催しました。

「照査法」は、スイスのビヨレイにより確立された森林施業方法で、区画ごとに林分を管理し、それぞれの成長量に見合った量を伐採することで、森林が恒続的に最高の生産力を発揮することが出来る施業方法で、この試験林は昭和30年に「照査法」を調査研究するために設けられた日本で最も古い試験林となっています。

普段あまり見る機会のない道有林の試験林について、さまざまな意見交換がなされました。

森林教室を開催

【新得町・東大雪支署】

12月16日、新得町立富村牛（トムラウシ）小中学校の全校児童・生徒を対象とした森林教室を開催しました。

クリスマスが近いこともあり、北海道でクリスマスツリーとして用いられることが多いトドマツについて、モミの木の仲間であることや、日本では北海道にだけ生える針葉樹であることなどを説明しました。

また、トドマツの葉をベースにしたクリスマスリースを制作し、クルミ、どんぐり、松ぼっくり、リボン、綿などを自由に飾り付け、個性あふれる素敵な作品が完成しました。

身近にあるトドマツに目を向けることで、森林に親しみを感じてもらえたのではないでしょうか。

これからも、森林環境教育を通して、森林や林業に対する理解が深まるよう取り組んでいきたいと思います。

ノルディックウォーキングとポロトの森を学ぶ

【白老町・胆振東部署】

11月29日、ポロト自然休養林保護管理協議会主催による「ノルディックウォーキングとポロトの森を学ぶ」がポロト自然休養林で行われました。

当日は肌寒いながらも天候に恵まれ、近隣の登別や苫小牧からの参加者を含め30人あまりの参加がありました。

コースは、約5kmを2時間程で歩く、ポロト湖畔を折り返すコースです。

ノルディックウォーキングの後、ポロトキャンプ場にあるビジターセンターにおいて、梅木署長より『ポロトの森を学ぶ』と題して簡単な森林教室を実施しました。

主要樹種の特徴や活用法からエゾシカ食害などを話題とする中で、イタヤカエデの倒木更新の様子を仮に500年の単位で映像化して早回しにすると、立ち上がっては倒れての繰り返しとなり「歩くように見える」と表現した話には驚きの声も上り、参加者から「ウォーキングするときの視野が広がる」等の声も聞かれました。

赤井川スポーツ林（キロロスノーワールド）

余市岳（1，488ｍ）、朝里岳（1，281ｍ）、阿女鱒岳（1，014ｍ）等の山岳に囲まれ、清らかな渓流と緩急の変化に富んだ地形から、春の新緑、秋の紅葉等優れた自然景観に包まれ、また、冬は良質なパウダースノーでウインタースキーを楽しめることから、札幌近郊の人気スキーリゾートの一つと言われています。

朝里岳北西斜面のスキー場、キロロスノーワールドを中心としてホテル２棟、温泉施設等があり、新鮮な農・海産物にも恵まれ、近年は韓国、香港、台湾等アジア各国・地域からの観光客も増えています。また、スキーシーズン以外も温泉、ハイキングなどで、通年型の高原リゾートとして楽しまれています。

平成28・29年度「国有林モニター」の募集

林野庁北海道森林管理局では、国民の皆様に国有林の役割や現状等をご理解いただくとともに、国民の幅広い意見を把握し国有林野の管理経営に役立てるため、平成28・29年度の「国有林モニター」を募集しています。

- 募集人員　48名
- 依頼期間　平成28年4月～平成30年3月
- 依頼内容　国有林野等に関するアンケートの回答や会議・現地見学会への出席
- 応募資格　北海道にお住まいで、国有林に関心のある満20歳以上の方
- 募集期限　平成28年2月26日（金曜日）必着
- 応募方法　詳しくは北海道森林管理局ホームページ（http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/press/kikaku/151204.html）をご覧ください。

北海道森林管理局は、広大で大変豊かな森林を国民共通の財産として、世代を超えたさまざまなニーズに応えられるよう、持続的な管理経営に努めるとともに、より豊かな姿で次の世代に引き継ぐことを使命としております。

北海道森林管理局のホームページ内では、「公売・入札情報」「知床世界自然遺産」「エゾシカ対策」「森もり！スクエア」「イベント情報」等の各サイト内において北海道国有林の情報をお届けしております。

広報　「北の森林（もり）　国有林」２月号
発行　北海道森林管理局
編集　総務企画部　企画課
〒064-8537　札幌市中央区宮の森３条７丁目70
ＩＰ電話　050-3160-6300
電　　話　011-622-5213
ＦＡＸ　011-622-5194
http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/

行事・イベント情報

2月20日（土曜日）
国有林モニター会議
（北海道森林管理局大会議室）

前回のモニター会議の模様